



# 親子で体感 実りの喜び

密着フォトレポート 農業にふれあう稲作体験

私たちが普段、何気なく口にしているお米。どのように作られているか知っていますか。「米」という字はその字が示すとおり八十八もの手間がかかると考えられ、昔の人は一粒一粒の米を大切にしてきました。

市では、田植えから収穫までを親子で体験しながら、食の重要性を学び、地域の農業に関心をもってもらいたい。と「農業にふれあう稲作体験」を6月から11月にかけて開催。長沼町で農業を営む菱山史郎さんのご協力のもと、「田植え」「草取り」「稲刈り」「収穫祭」と全4回にわたり、昔ながらの方法でお米作りを体験しました。

どの作業も子どもたちは夢中に。日常では味わえない自然体験を満喫しているようでした。わが子に熱心に作業を教える父、子どもよりも夢中になる母。親子のふれあいの場にもなったようです。

食べ物や農業の大切さを感じてほしいと企画した今回の稲作体験。親子にとって、実りある時間になったのではないのでしょうか。

## 10月12日◎稲刈り

半袖でも汗ばむほどの陽気となったこの日。稲は秋らしく、豊かに実っていました。

初めて使う鎌も徐々に上手に。「刈る、縛る、干す」。全身の力を使う作業に、親子で汗だくになりながら稲を収穫しました。



## 11月16日◎収穫祭

最終日は脱穀・もみすり・精米を行いました。普段目にしない、もみ付きのお米にみんな興味深々。出来上がったお米を手にする表情は達成感と満足感にあふれていました。



## 8月10日◎草取り

稲の成長の妨げになる雑草を取り除きます。田んぼに入ること、稲の根を刺激し、成長を促す効果も。梅雨が早く明けた影響で浮草が大量に発生。緑鮮やかな光景に包まれながらの作業となりました。



## 6月15日◎田植え

はじめは田んぼの泥に足をとられ四苦八苦する子どもも。慣れてしまえば早いもので、菱山さんの指導のもと、次々と、そして心をこめて苗を植えていきます。普段、感じることのない泥の感触に「冷たくて気持ちいい」と親子の楽しそうな声が響き渡っていました。

